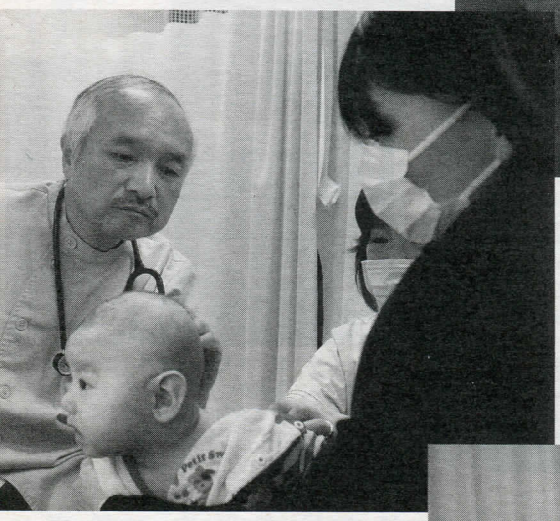
［第6回］北海道・東北・北陸

風邪でも往診OK

全国有名医師が推薦する「町のお医者さん」

朝から晩までフル回転で200人の子どもを診る。高齢化が進む過疎地で患者とじっくり向き合う。北国の地域医療を支える医師たちに密着した。

編集部 大岩ゆり ライター 関百合子 写真 今村拓馬、馬場岳人



永井小児科医院の職員は10人。子どもの顔を見るだけで病気の重症度がわかるという永井さん。「自慢は職員が有能なことです」

プルル、プルル。仙台駅から車で5分の住宅地にある永井小児科医院の朝は、ひっきりなしの電話の音で始まる。冬は1日200人を診察するが、患者が開院を待って寒空の下に並ぶようなことはない。緊急時以外は、完全予約制だからだ。

院長の永井幸夫さん(59)が、愛犬ピーターと散歩から戻り、2階の自宅から1階の診療所に下りてくるのは午前8時。カルテの束に目を通し、職員との朝礼を終えるころ、待合室は親子でいっぱいになった。

この日急いで診たのは、前日からひどい嘔吐と下痢だという1歳9カ月の男の子。夜間救急に駆け込むよりも永井さんがいい、と両親に連れられてきた。

「午後にはもっとぐったりしてくるから今回は入院しようね」

永井さんは数日の点滴治療が必要だと判断。ファクスで近くの国立病院に問い合わせ、間もなく入院が決まった。必要に応じて他の医療機関をすぐに紹介する。それも両親が永井さんに信頼を寄せる理由の一つだ。

待合室の患者に問診

午前中だけで患者は90人。1人あたりの診療時間は重症患者以外はそれほど長くないが、その分、スタッフのチームワークで患者を支えている。

「今日はどうしましたか?」

看護師が待合室の患者に、咳やのどの痛み、熱などの症状を質問し、そのメモをカルテに添える。診察中は、専属職員が永井さんの指示を書き取り、処置や薬を担当する看護師に渡す。

診察後に心配そうな顔の親が

illustration 埜口琴理

専門医の推薦する家庭医

表の見方（データは2008年2月現在）

- 医療機関名
- 主な診療科
  小 小児科　内 内科　外 外科
  胃腸 胃腸科　循 循環器科
  呼 呼吸器科　神内 神経内科
  消 消化器科　脳外 脳神経外科
- 往診ー往診をしている
- 在宅ー在宅診療をしている
  往診・在宅に＊印がついているところは限定的な条件がある。詳細は医療機関に
- [ ]ー開設年
- 推薦された医師名
- 医師の誕生年／出身大学
- 専門 得意とする分野
- 医療機関の住所・電話番号

推薦理由。（ ）内は推薦者の名前と肩書

全国のがん診療連携拠点病院や特定機能病院、地域医療支援病院に所属する専門医らに、プライマリ・ケア医（家庭医）としての推薦医師を理由を添えて挙げてもらった。以下はその一部。詳細は5月下旬発行予定のアエラ臨時増刊「日本の家庭医（仮題）」に。

北海道

坂本医院
内 胃腸　往診・在宅　[1942年]

坂本 仁
1945年生／北海道大
専門 在宅ホスピス、緩和ケア
札幌市西区琴似二条4－3－10
☎011-621-0808

■父親の代から医師として地元で定着しており、地域住民と深いつながりを持つ。往診はもちろん、患者の要望や症状に適切に対応し、他の医院や病院への紹介を適宜行う。医師や看護師、行政などを巻き込んだ地域の在宅医療の勉強会を何年も前から開き、連携強化を図っている。この運動は全国的にも知られている。

（内藤春彦・[国]北海道がんセンター副院長）

東町ファミリークリニック
内 外 小　往診・在宅　[1991年]

武田伸二
1956年生／北海道大
専門 家庭医療学
岩見沢市東町一条8－932－74
☎0126-24-5771

■家庭医が複数集まったグループ診療を日本で初めて始めたクリニック。在宅診療にも力を入れる。

（前沢政次・北海道大学医療システム学教授）

国保尾駮診療所
内 小 外　往診　[1986年]

松岡史彦
1958年生／自治医科大
専門 家庭医療学
六ケ所村尾駮野附1161
☎0175-72-2791

■長年、地域医療に貢献している。超音波医学会や消化器内視鏡学会などに所属し、プライマリ・ケア認定医資格を持っている。2005年より弘前大学総合診療部の客員教授。本当の意味での家庭医といえる医師。大学時代はシンガー・ソングライターでもあり、すばらしいオリジナルソングを数多く持っている。（中島進・雪の聖母会聖マリア病院脳神経外科診療科長）

宮城県

めときこどもクリニック
小　[1993年]

目時規公也
1954年生／東北大
専門 小児科一般
仙台市青葉区国見ケ丘1－14－4
☎022-278-1041

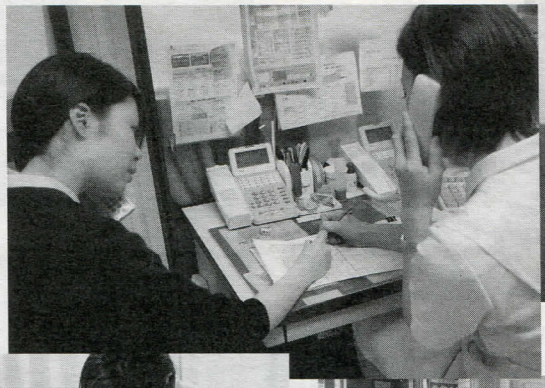
■見立てが正確。たくさん来る子どもたちの中から重症患者を見逃さず、大きな病院へ紹介してくれる。紹介前の診断や紹介のタイミングがとても適切。温厚な人柄で、同業者からの人望も厚い。クリニックの建物やスタッフも母親たちに評判がいい。（虻川大樹・宮城県立こども病院総合診療科部長）

青森県

今村クリニック
内 胃腸 呼　往診＊・在宅＊　[1986年]

今村憲市
1946年生／弘前大
専門 糖尿病、慢性膵炎、C型慢性肝炎
弘前市松原西2－1
☎0172-88-3090

■糖尿病を専門としながら、その合併症である心臓や血管の病気、感染症についても造詣が深い。地域の他の医療機関と綿密に連携している。啓蒙活動も活発に行っており、医師と患者双方からの信頼が厚い。（福田幾夫・弘前大学病院副院長）



朝7時45分、永井小児科医院の予約開始（左上）。仕事を終え永井さんが寝るのは午前零時を回ってからだが、朝の散歩は欠かさない

いると、ベテランの看護師長が声をかけ、薬の飲み方や予防接種など何でも相談に乗る。

永井さんは、診療所と病院の中間の役割を果たす「1・5次医療」に取り組んできた。それだけに、普通なら総合病院に駆け込むような「重い」患者も集まってくる。日帰りで点滴治療が受けられる専用ベッドが6床あり、脱水症や重い喘息（ぜんそく）でも、入院でなく通院治療にできることが少なくない。

午前の外来が一段落した午後1時過ぎ、息つく暇なく、点滴患者の回診が始まった。

「いつもはあんなに元気なのになあ。家に帰るまでには良くなるから、もう少し我慢しよう」

永井さんの一声で、心配そうに付き添っていた父親の顔に笑みが戻った。

口コミで熱心さ伝わる

午後6時すぎ、学校帰りの小学生の診療を終え、点滴治療の患者もみな帰路についた。永井さんは静かになった診療所の院長室で書類に目を通す。夜は医師会の会合なども多く、仕事はなかなか終わらない。

そんな永井さんだが、約30年前、急死した父を継いだ開業当初は、どん底をみた。準備のための1カ月の休診で、患者が離れてしまったのだ。患者が15人程度の日が続き、税理士に「スタッフ3人の給料の支払いも難しい」と心配された。

だが、「地域の子どものために」を旗印に、夜間も土日もなく懸命に診察を続けた。そのうち、点滴治療が四六時中必要な喘息の赤ちゃんを診たのがきっかけで、喘息治療に力を入れるようになり、学会で喘息の権威を見つけると質問攻めに。

「頭のてっぺんからつま先まで診てくれる」

と熱心な診療ぶりが口コミで広がり、開業の半年後には父親の代からの患者も戻ってきた。

「やっぱり、大切なのは信頼を得ることです」

編集協力　田尻香一　平田啓介　柳田ゆき代　立花佳美　天野　聡　関口久子　向川貴子　高橋麗子　小林敦生　田尻恵子

財政破綻した北海道夕張市に隣接する岩見沢市で、「万字のまさこ様」と言えば畠山政子さん(88)のことだ。取材の際に住所を尋ねると、当然のようにこう言った。

「『万字のまさこ様』って書けば、届くわよ」

旧栗沢町の万字地区は、夕張市同様炭鉱町として栄え、その後衰退した。ピーク時に5000人以上だった人口は現在約150人。かつては診療所が3、4カ所あったが、今は無医地区になっていて、週2回、医師が車で「万字診療所」にやって来る。火曜日の先生が、堀江淳司さん(43)だ。

午後1時半、診療所に堀江さんが到着すると、すでに3人の患者が待っていた。元とび職という70代の男性は、

「今日もボブスレーに乗って来たんだ」

患者に習って鍼を打つ

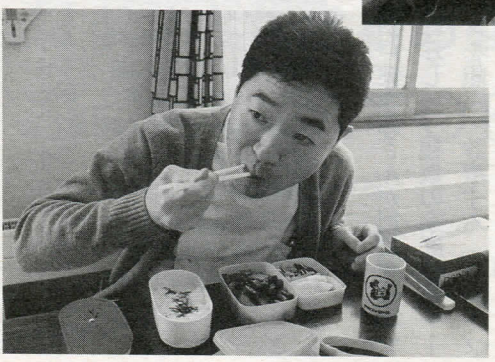
持病の薬を所望した後、「腰も」と催促。炭鉱マン時代に腰を痛め、鍼が欠かせない。診療所に鍼を導入したのは堀江さんの前任者だ。堀江さんは経験がなく、最初は断ったが、この男性がどうしてもと譲らず、根負けしたのだ。

「ここに、と教わりながら打っているんです……」

少し照れくさそうな堀江さんに、男性は笑顔で言った。

「大丈夫だ。息子にも言ってあるから。何があっても先生を訴えたらだめだって」

この日、堀江さんは7人診察した後、「万字のまさこ様」の往



「炭住」で暮らす「万字のまさこ様」を往診する堀江さんと研修医の小谷綾子さん（左上）。昼はいつも愛妻弁当だ（下）

山形県

ねもとクリニック
内外循　往診・在宅　[1998年]

根本 元
1951年生／山形大
専門 循環器、血管外科
山形市小白川町4－8－13
☎023-628-5656

■緩和医療など広範囲に診療している。責任感も強く、病院に紹介して入院した患者については、自分で病院に足を運び、入院経過を観察している。（平川秀紀・山形市立病院済生館長）

佐藤清医院
脳外神内内　往診・在宅　[1997年]

佐藤 清
1954年生／山形大
専門 脳神経外科
山形市五十鈴1－6－56
☎023-626-7275

■元々は脳神経外科の専門医で、現在は一般内科として開業。脳疾患に限らず豊富な知識を持つ。初期治療をよくわきまえており、緊急性があるか、精査が必要かを的確に見分ける。病院紹介後のフォローもきっちりする。（斎藤伸二郎・山形市立病院済生館脳神経外科長）

富山県

山西医院
内循胃腸　往診・在宅　[1968年]

山西一門
1957年生／金沢医科大
専門 循環器一般
富山市牛島本町2－6－8
☎076-441-6770

■循環器内科医として極めて高い手腕と診断能力があり、患者と医師の両方から信頼されている。誰にでも好かれる温厚な性格で、週1日は地域の基幹病院で循環器の診療もしている。（渡辺剛・金沢大学病院心臓血管外科教授）

高陵クリニック
内循消　往診＊・在宅＊　[1990年]

遠山龍彦
1940年生／金沢大
専門 腎・膠原病、慢性腎不全
高岡市野村23－1
☎0766-26-6200

■診断が正確で、患者中心の医療を実践している。新しい治療方法も積極的に採り入れ、学問的探究心を持っている。自分の領域を超える際は、適切に他院へ紹介する。患者家族への配慮も十分。（沢崎邦廣・高岡市民病院長）

江川クリニック
内消　[1994年]

江川春延
1949年生／東北大
専門 消化器内科（大腸）
仙台市青葉区旭ケ丘4－35－27
☎022-274-1205

■患者のフォローアップがきめ細かい。病院との連携もいい。（徳村弘実・東北労災病院副院長）

永井小児科医院
小　[1979年]

永井幸夫
1949年生／日本大
専門 感染症、喘息治療、予防接種、1.5次医療
仙台市宮城野区宮城野1－25－10
☎022-256-3466

■診断、治療の的確さは超一流。地域連携にも力を入れている。日本外来小児科学会の立ち上げメンバーの一人。（千葉庸夫・仙台医療センター総合外科部長）

まひと内科クリニック
内　[2004年]

木村真人
1965年生／弘前大
専門 糖尿病、代謝
仙台市宮城野区高砂1－24－39
☎022-388-8228

■患者の面倒をよくみることで評判。患者のフォローアップもいい。病気の見立てにも定評がある。（松野正紀・東北厚生年金病院長）

福井県

いちせクリニック
小内　[1991年]

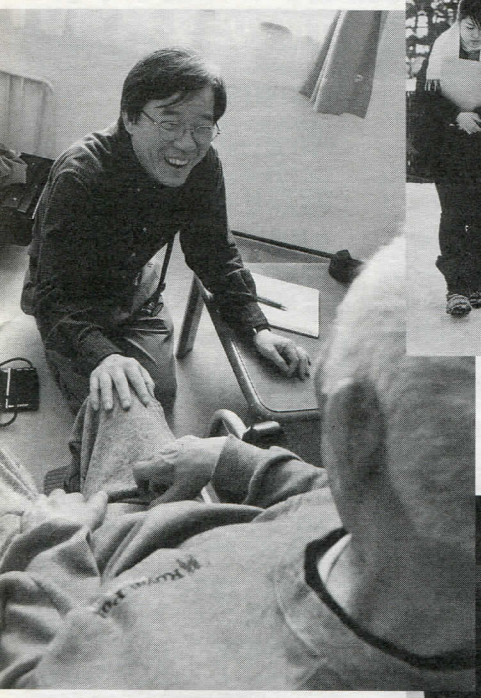
一瀬 亨
1956年生／自治医科大
専門 小児科外来一般、アレルギー疾患
小浜市南川町1－30
☎0770-53-2415

■小児だけでなく、思春期や成人に近い年齢まで診察できる。地域に密着している。地域の病院との連携も良い。（畠清彦・癌研有明病院化学療法科部長）

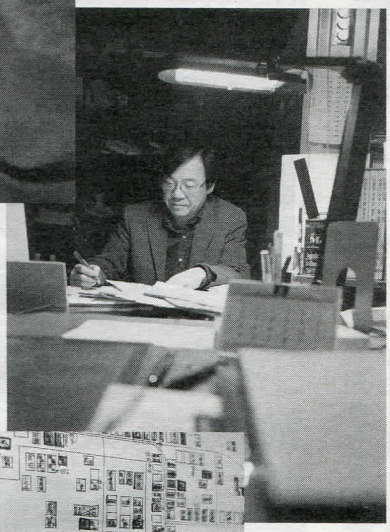
玉井内科クリニック
内小　往診　[2000年]

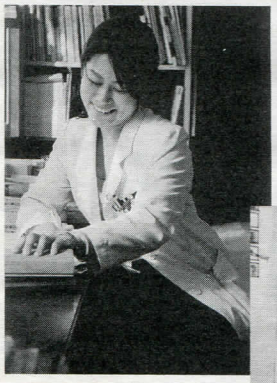
玉井利孝
1951年生／金沢大
専門 糖尿病、高脂血症
福井市下荒井町4－74－15
☎0776-39-1200

■診断が迅速かつ的確。生活の質（QOL）を考慮した診療を実施している。（下條途夫・福井赤十字病院循環器科部長）



武田院長。医師4人によるグループ診療がうまくいっているのは「人格者の武田さんに負うところが大きい」と他のメンバーは言う





診に出かけた。畠山さんは炭鉱労働者向けに建てられた長屋「炭住」に30年以上暮らす。空き家が増えたので、いまは2世帯分を一人で使っている。診療が終わったころ、畠山さんが切り出した。

「電話を毎日くれる娘に叱られたの。『声を聞きたくて電話してるのに、どうして施設に入るなんて言い出すの』って。施設だと、毎日は電話できなくなるでしょって。だから、やめようと思うの……」

夫と2年前に死別。子どもが他県に住む畠山さんは、介護老人保健施設への入居を検討していた。寒い日は零下20度以下になり、雪が1日に1メートル積もることもある万字の冬は、高齢者には厳しい。だが結局、娘の一言で思いとどまった。

「僕は、うれしいよ。なるべくここにいてね。呼んでくれたら、いつでも来るから」

堀江さんや同僚医師は、患者宅への往診だけでなく、車で診療所への送迎もしている。

4医師のグループ診療

小学生のとき「将来は医者になりたい」と作文に書いた堀江さんだが、医学部受験を2度失敗していったんは断念。応用化学で修士号を取り、企業の研究所に就職した。しかし医者の道をあきらめ切れず、再チャレンジで初志を貫徹した。

出身は兵庫県だが、学生時代に夏のカヌーや冬のスキーで何度も訪れた北海道に魅せられ、医者になって6年目の2004年、北海道勤務を実現させた。

選んだのは、岩見沢市の東町ファミリークリニック。現在ネパールで医療支援活動に携わる楢戸健次郎さんが創設。日本では珍しい、複数の家庭医がチームを組んで診療する「グループ診療」をしている。開設時からいる院長の武田伸二さん(51)を中心に4人の医師が交代で、万字を含む市内3カ所で診察。他の医療機関がない美流渡地区の診療所では宿直もする。

週に1日は比較的自由に使える「研修日」がある。もともと「色々なことがやりたい」と家庭医になった武田さんは、海外の学会に足を延ばしたり、北海道大学病院で皮膚科や精神科の診療を勉強したりしてきた。

「年収は他の北海道の医師より低いだろうけど、ここには時間と余裕がある。忙しい医者は軽い風邪で往診を頼まれたらムッとするだろうが、僕らは『きっと不安で話し相手が欲しかったんだろう。話し相手になれて良かった』と思える。幸せなことだと思います」

石川県

わたなべ小児科医院

小 [1988年]

渡部礼二
1947年生／金沢大
専門 感染症、消化器疾患
金沢市泉本町5－5－1
☎076-243-0200

■小児科の感染症のスペシャリスト。非常に勉強熱心で、自ら医院内で各種細菌を培養し、菌の種類を判定している。患者に対して熱心に話し、真剣に向き合う姿は、常に我々の手本である。

（太田和秀・[国]金沢医療センター小児科医長）

秋田県

寺田内科医院

内 循 呼 往診・在宅 [1980年]

寺田俊夫
1943年生／弘前大
専門 循環器内科
秋田市旭南1－1－6
☎018-862-4628

■医学全般にわたる幅広い知識を持つ医療人。現代の赤ひげというべき人間味豊かな人物である。

（三浦傳・秋田県成人病医療センター長）

岩手県

もりおか往診クリニック

内 外 神内 往診・在宅 [2003年]

木村幸博
1963年生／岩手医科大
専門 訪問診療
盛岡市東見前6－85－1
☎019-614-0133

■がん患者の自宅での看取りを積極的に行っている。緩和ケアにも造詣が深い。（望月泉・岩手県立中央病院副院長）

福島県

のざわ内科クリニック

内 消 小 往診・在宅 [1997年]

野沢靖美
1952年生／金沢大
専門 内科全般、家庭医療
三春町貝山岩田86－2
☎0247-61-1500

■患者をトータルに診る全人的医療を実践。日常の診療に潜む様々な疾患を的確に診断し、最善の治療を施すことに非常に熱心。高度医療に頼りがちな昨今、いかに詳細な病歴や身体的所見から正しい診断に至るかを常に考えている。初期研修医の教育の一端も担い、研修医からの人気も高い。

（太田昌宏・太田西ノ内病院総合診療科部長）